

たいら行雄

おはようございます。

私は、日本共産党県議団として、提案されました6月補正予算追加提案分について質問させていただきます。

**まず、予備費の積み増しについて伺います。**

今回の補正予算につきましては、今後の新型コロナウイルス感染の第2波、第3波に備えて、新規分を含め、様々な事業が計上されていますが、予算のほとんどすべてが国庫支出金であり、事業の目的がある程度限定されています。

そのため、今後想定されない事態が生じた場合に、どのような事業にでも充当可能な予算を「予備費」として、ある程度計上しておく必要があるのではないかと考えます。

これにつきましては、当初予算において2億円の予備費計上がされているところですが、今後さらに積み増すお考えはないかお伺いします。

**続いて、新型コロナウイルス相談窓口設置事業について伺います。**

今回、新型コロナウイルス感染症に関する、県民からの様々な問い合わせ等に対応するための「一元的な相談窓口」を設置するとされています。そして、その相談窓口は外部委託にて対応するとのことですが、具体的にどのような業者に委託されようとしているのかお示してください。

また、補正予算額約9千万円の積算根拠をお示してください。

以上、質問を終わります。

### <再び登壇>

それぞれ、ご答弁をいただきました。

私のところには、これまで新型コロナウイルス関連の相談が直接寄せられ、その都度、担当課の方々には、ご相談させていただきました。

相談者の多くは、個人事業主の方々に、「3密」を避けるために休業要請に応える形で営業を自粛しましたが、100m<sup>2</sup>以上との面積要件に外れたため、休業要請の施設であったにもかかわらず、残念ながら協力金の支給対象となりませんでした。恐らく、このような悔しい思いをされた個人事業主の方々が大勢いらっしゃるものと思います。私は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために協力をいただいた全ての方々を無条件に救済することが、行政の大切な仕事だと思っています。

最後に、わが県の経済と県民生活が危機に瀕している今こそ、国からの財源に頼るだけでなく、これまで県が蓄えてきた「財政調整積立基金」を大胆に取り崩すなどの施策を講じ、「県民のいのちと暮らし、営業と経済を何が何でも守る！」という気概を広く県民に示していただくことを、三反園知事に切にお願いし、私の質問を終わります。

ありがとうございました。